

第1回「長崎大学未来に羽ばたく女性研究者賞」受賞者研究発表会および授与式開催報告

「長崎大学未来に羽ばたく女性研究者賞」は、優れた研究成果を挙げた長崎大学の若手女性研究者を顕彰することによって、研究意欲を高め、学術研究の将来を担う優秀な女性研究者の育成及び男女共同参画の促進を目的として、今年度創設されました。

第1回受賞者研究発表会および授与式は、平成29年3月16日（木）10時20分から、文教キャンパス事務局第3会議室において、執り行いました。報道各社（読売新聞社、長崎新聞社、長崎国際テレビ）からの取材がありました。

【受賞者】

優秀女性研究者賞 大学病院第二内科 山本和子 助教
優秀女性奨励賞 水産・環境科学総合研究科 近藤能子 助教

1. 開式挨拶（伊東昌子副学長／ダイバーシティ推進センター長）

伊東副学長からは、ご列席いただいた方々への御礼と本研究者賞の趣旨と概要説明がありました。本学において全学横断的に優秀な女性研究者を表彰する賞は、本賞が初めてのものとなることを示したあと、受賞者2人の更なる研究の飛躍と活躍を期待されて挨拶とされました。

2 受賞者研究発表

優秀女性奨励賞 近藤能子 助教

■ 報告内容

1) これまでの研究の経歴、2) 海洋における微量金属研究の重要性、3) 西部北極海における微量金属元素（鉄、マンガン、ニッケル、亜鉛、カドミウム）の輸送メカニズム、4) 今後の研究を報告。

■ 今後の研究

地球温暖化に付随する海洋環境の変化と微量金属元素の生物生産やその毒性への影響についても研究



したいと考えている。海洋環境の研究を目指す学生たちとも研究を進めていきたい。

■海洋環境に関わる基礎研究は、決して派手な研究ではない。このような賞の受賞は励みになる、これを励みにますます研究に精進していきたい。

優秀女性研究者賞 山本和子 助教

■報告内容

1) 私の研究履歴、2) 受賞研究課題に関連した研究成果、3) 今後の研究の展開案を報告。

■今後の研究

今後は、肺炎球菌肺炎微生物学的、免疫学的の両方からアプローチして研究を継続するとともに、重症肺炎の肺治療など、共同研究を続けながら進めていきたい。

■このような賞をいただき、ますます研究を頑張っていきたい。この賞名である「未来に羽ばたく」は希望に満ちて行動する、広い社会で活躍するという意味であり、明るく活動的に、国際的な視点で研究を続けることが期待されていると思っている。「女性」ということをこれまではそれほど意識したことはなかったが、人の力を借りることを厭わず共同研究にも積極的に関わることができる点は「女性」としての長所とも考える。私自身もそうでありたいと思う。女性は粘り強いと評されることがあるが、私自身も諦めない気持ちでやり続けたい。また、学内共同研究の活性化に期待したく、研究発表会やネットワークの構築で学内にどのような専門家がいるのかを共有できることを希望する。



3 授与式

片峰学長から受賞者のお2人に、表彰状、研究費としての副賞の目録、記念の盾が贈られました。

4 総評（片峰茂学長）

片峰学長は、優秀な研究者を表彰し研究発表を行うこのような機会の良さを改めて実感した、と話されました。また、全く違う分野での研究は非常に刺激的で、研究分野が融合するような仕掛けは長年の夢であり、色々なアイデアで実現していきたいと述べました。お2人の発表については感銘を受けたこと、男女での区別は好ましくないかもしれないが、女性が持つしなやかさと粘り強さは女性ならではの個性であり、これからの科学研究にはまさにそのしなやかさと粘り強さが必要であると述べ、女性研究者の未来は明るい期待されました。今日の受賞者については、長崎大学のリーダーとしての蓄えも資質もあり、背中を見せながら牽引していただろうと期待され、お祝いの言葉で結ばれました。



5 閉式の言葉（河野茂理事）

河野理事は、受賞者研究発表を聞きながら、女性の強さ、考え方の良さに想いを巡らせたこと、女性研究者は粘り強くたくましさも持ち合わせていると話されました。長崎大学でも女性研究者の比率は、確実に、格段に、上がっていくであろう、受賞者のような素晴らしい女性研究者が続くだろうと締めくくりました。



（写真左から、小守壽文副学長、伊東昌子副学長、【優秀女性奨励賞】近藤能子助教、片峰茂学長、【優秀女性研究者賞】山本和子助教、河野茂理事）